



令和7年度 内閣府

# コミュニティ防災教育推進事業

---

沼津市立長井崎小中一貫学校のモデル地区実践と  
学校で使える具体的な学習展開例

(監修) 静岡大学教授 村越 真

# 1. なぜ「コミュニティ防災」なのか？

## ▲ 迫る危機

発生が予測される南海トラフ巨大地震や気象変動に伴う風水害の激甚化など、多様な災害に見舞われる日本では、防災は市民生活の根幹です。しかし、ハード面の防災対策や公的支援（公助）には限界があります。

## ■ 学校の課題

学校では熱心に防災教育を行っていますが、その成果が地域社会へ十分に展開されていません。子供たちの学びを「想定内」と「学校内」で終わらせず、地域住民の意識向上につなげる仕組みが必要です。

## 2. 地域の実態 (実践モデル地区：静岡県沼津市長井崎校区)

### ✓ 高い災害リスク：

リアス海岸沿いで、津波による被災が予想される地域。

### ✓ 社会的な課題：

少子高齢化・過疎化が進行。

高齢者の中には「避難を諦める」「躊躇する」層も存在。

観光客など、他地域の住民の滞留もある。

### ✓ 目指す姿：

公助が困難な大規模災害に対して、一人でも多くの命を救うための「自助」と「共助」意識の向上。



### 3. コミュニティ防災教育推進の3つのポイント



#### 「情報共有」

まずは、災害に関する基本的な知識が必要です。その上で、学校が持つ地域防災の情報や災害時に想定される状況について「情報共有」します。この「情報共有」が学習参加者の課題への気づきを高めます。



#### 「コミュニケーション」

「情報共有」から生じた課題に関する「コミュニケーション」を図ります。その際、「一般的なマクロな課題」から「自分事化したミクロな課題」に落とし込むことが大切です。



#### 「課題解決」の学習過程

自分事化したミクロな課題についての「コミュニケーション」をとおして、自分でできること、自分たちでもできることを考えます。自分で「課題解決」できそうなことは何かを考える学習過程を取り入れることが重要です。

## 4. つなぐツール：防災アプリの開発



### 学習成果を地域へ届ける架け橋

本校の9年生（中学3年生）の防災学習の成果を、地域住民と共有するために独自の防災アプリ「うらぼう」（内浦・西浦防災アプリ）を開発しました。

本事業では、このアプリを活用し、地域住民参加型の防災イベントを実施することで従来の「発表を聞くだけ」の会から、「参加・体験型」の学習の場を作り、自分事化する手がかりを得ます。

---

## 【実践例1】避難路の課題の自分事化

防災アプリのマップ機能を活用し、中学生の学びを地域の学びにつなげることで、地域住民が、自分事化したミクロな課題を把握し、自助ベクトルを生み出す課題解決学習の場を造ります。（巻末のワークシートを使用）

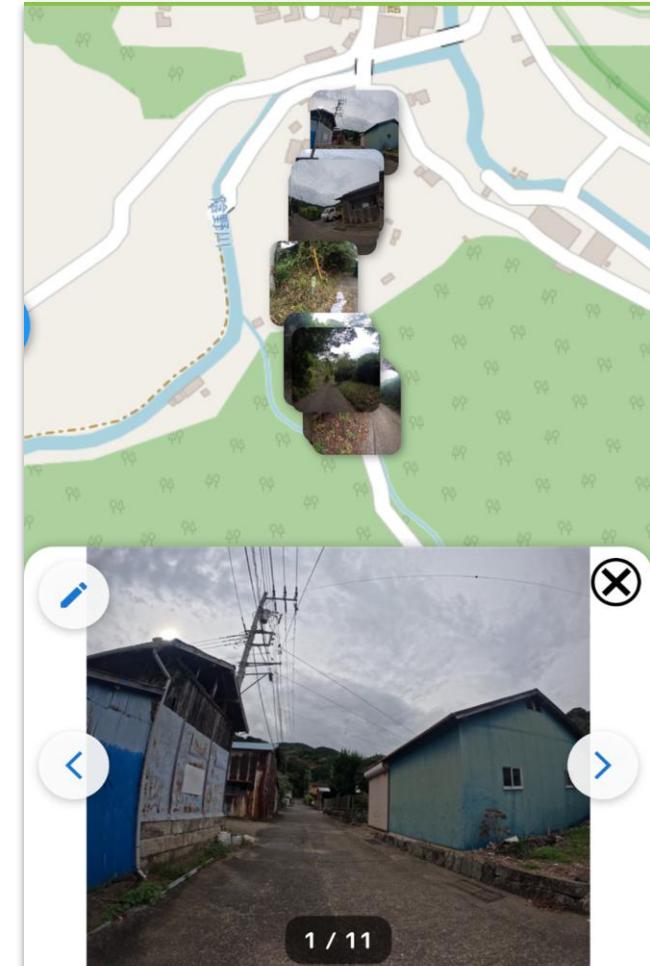
# 展開①：「情報共有」 課題への気づき・自分事化

## ① 災害が発生すると何が起こる？

災害は怖いと思っていても、その時、いつ、何が起こるかは意外と知らないものです。たとえば、地震なら、風水害なら、どんなタイムラインで何が起こるか。学習に先立ち、災害に関する知識を確認します。※巻末のワークシート使用

## ② My避難経路マップを使った課題の自分事化

防災アプリの「My避難経路マップ」から、自分や特定の「あの人」が困ることは何かを具体的に考えます。「避難は難しい！」というマクロな課題意識から、「自分にとって困るのか？」と、ミクロな課題意識にフォーカスします。防災アプリがなくても、ウェブにある360°パノラマビューサービスなどが活用できます。



# 展開②：「コミュニケーション」 避難経路リスクに気づく

## 1 課題を把握し、付箋に記入・整理

災害時に発生することのタイムラインから、把握した避難経路上の課題を付箋等に記入し、4～5人のグループで、ワークシートに整理します。※巻末のワークシート使用



## 2 仮想設定による課題の発見

普段は課題を感じなくても、災害は都合のよい時に起きるとは限りません。「都合の悪い」場面を仮想したコミュニケーションを行うことで、課題の自分事化が進みます。



「夜中だったら？」



「暗くて道が分からぬかも・・・」



「雨の日だったら？」

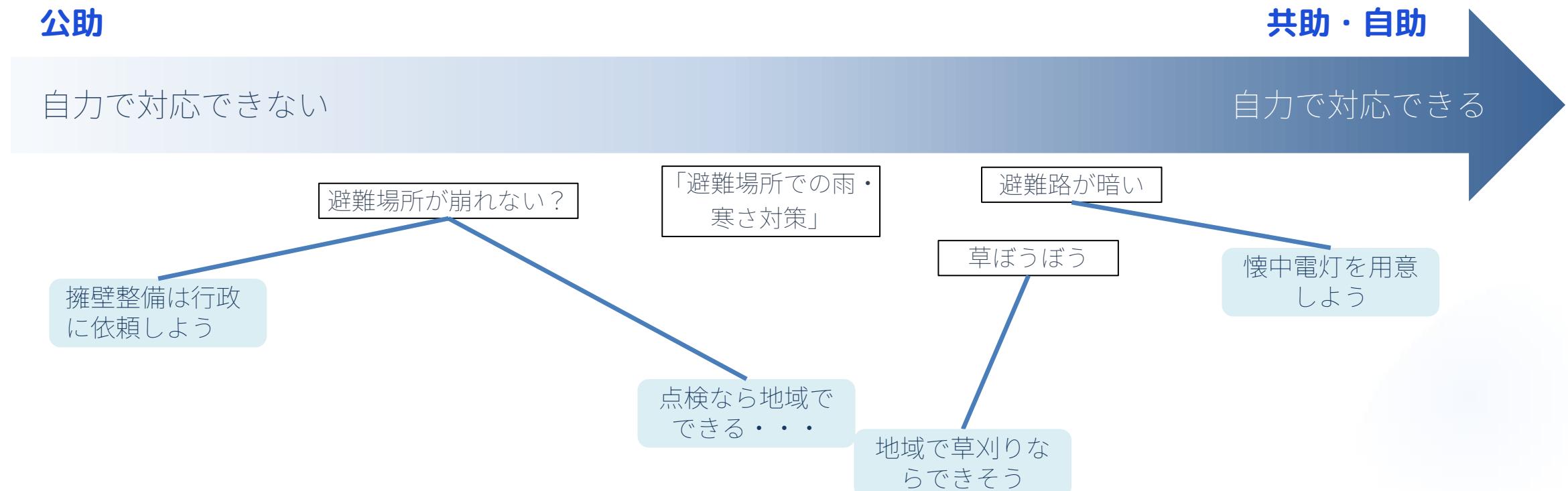


「滑る」「避難場所で濡れちゃう」・・・

# 展開③：「課題解決」 公助から自助共助による解決へ

## ① ミクロな課題を自助ベクトルに位置づける

付箋に整理した課題を、以下の「自助ベクトル」に位置づけます。この際、「自分でできる」「自分でできない」ではなく、「少しでもできそうな事」をより右に位置づけるのがミソ。どんなことならできそうかに気づくことができれば、具体的な課題改善アクションにつながります。



---

## 【実践例 2】災害備蓄リストを作成しよう

「自助」の改善：防災アプリの「災害備蓄品リスト」機能を活用  
(巻末のワークシートを使用)

# 展開①：「情報共有」

**課題を把握し、備蓄リストを作成・共有**

## 1 課題の気づきと把握

防災タイムラインのワークシートから、災害時にはたくさんのトラブルが発生することに気付きます。

## 2 備蓄品を振り返る

災害時のトラブルに応じて、自分の日常生活で課題となることを把握した後、互いの防災備蓄品リストを作成することで、情報共有ができるようになります。



## タイムラインで考える

発生直後/1日後/3日後/10日後・・・それぞれの時点で何が必要かを考えます。



National University Corporation  
**Shizuoka University**

発生直後 数分 数十分 数時間 1日 3日 10日 1ヶ月 3ヶ月	損害	対応できる備蓄品
建物倒壊・転倒・落下物	けが・圧死	
火災	けが・焼死	
閉じ込め	体調不良	
津波	けが・溺死	
上水道断水	飲水不足	
電話(通信)の途絶	連絡途絶	
停電	灯り・冷暖房	
交通機関の途絶	帰宅移動困難	
下水道不可	し尿処理	
避難所生活	生活の質低下	

# 展開②：「コミュニケーション」 新たな視点を得る

## ① 具体的な場面を想像した話し合い

互いの備蓄リストの共有から得た情報や、ファシリテーターの問いかけに合わせて、備蓄品に関するコミュニケーションを行います。具体的な課題の場面を想像して、自分に必要な備蓄品を考えたり、他者の備えを知ることで、新たな視点が生まれたりします。



(例) 「避難所生活の時、自分にとって何が一番困るでしょうか？」

「私はプライバシー、人の目が気にならないように過ごしたい」



「俺は音だな。安眠できない」



「スマホが充電できないと困るかな」



「うちちはソーラーパネルとつなぐ蓄電池を用意してますよ！」



「それは知らなかった！便利そうですね」

防災備蓄品リスト				
備蓄品リスト				
新規登録				
ジャンル	品名	個数	消費期限	
生活用品	寝袋	4	なし	
衣類	防寒着	4	なし	
生活用品	使い捨てカイロ	24	2030-10-10	
生活用品	懐中電灯	2	2025-12-28	
電子機器	発電機	1	なし	
飲食物	アルファ米	20	2028-01-11	
工具	ドライバーセット	1	なし	
飲食物	飲料水2リットル	24	2030-06-10	
生活用品	歯ブラシ	24	なし	

# 展開③：「問題解決」 自助による改善アクションへ

## ① ミクロな課題を自助ベクトルに位置づける

コミュニケーションを通じて出てきた、ミクロな課題を「自助ベクトル」の中に位置づけます。どんなことならできそうかに気づくことができれば、具体的な改善アクションにつながります。この時、他者の備蓄品リストが参考になるかもしれません。

公助

共助・自助

自力で対応できない

自力で対応できる

避難所

し尿処理

避難場所での雨・  
寒さ対策

寝るときの音や  
明るさが苦手

閉じ込め

防災用トイレ  
の設置

風呂での閉じ込め

アイマスクと  
耳栓を備蓄

バールを用意  
しよう

携帯トイレ  
の備蓄

## 5. 「コミュニティ防災教育」 全ての学校で実践可能です！

---

本事例では「アプリ」を使用しましたが、紙のワークシートや既存のツールでも同様の教育効果が得られます。

- ✓ 重要なのはツールではなく「3つのポイント」

「情報共有」「コミュニケーション」による課題への気づき・把握 → 自分事化

→ 自助共助による課題解決の可能性と限界への気づきのプロセス（「課題解決型の学習過程」）が重要です。

- ✓ 生徒が防災教育のファシリテーターに

生徒が総合的な学習の時間を通して地域課題を自分事化するための情報収集を行い、それを地域で共有したり、地域住民と生徒が一緒に考えたりする機会をもつことで、地域全体の防災力の向上につながります。



自分で対応できること

協働して対応できること



# 地震災害のタイムラインと備蓄品でできること

発生直後 数分 数十分 数時間 1日 3日 10日 1ヶ月 3ヶ月

	損害	対応できる備蓄品
建物倒壊・転倒・落下物	けが・圧死	
火災	けが・焼死	
閉じ込め	体調不良	
津波	けが・溺死	
上水道断水	飲水不足	
電話(通信)の途絶	連絡途絶	
停電	灯り・冷暖房	
交通機関の途絶	帰宅移動困難	
下水道不可	し尿処理	
避難所生活	生活の質低下	